



PTA

かながわ



発行者 神奈川県PTA協議会 事務局 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9 横浜ビル302B号室 電話 045(228)7520 FAX 045(228)7541

加えて文部科学省の今後の長期的な教育改革の二環の中には、学校が地域に

今年度の入試期間も終り、各小中学校では卒業の時期を迎える頃でしょうか。まず始めに保護者としての皆様のご苦労に思いをはせ、重ねて日頃のPTA活動へのご協力とご尽力に感謝致します。皆さんのご尽力によって、神奈川の子どもたちが健やかに伸びゆく環境が、日々改善されるよう私たちも尽力する覚悟です。

昨年度から今年度までに、「神奈川県PTA協議会」を取り巻く状況には大きな変化がありました。一つは相模原市PTAの政令指定都市移行に伴う「県PTA協議会」からの独立です。これによって私たち県協議会は、二万三万会員から一八万会員へとその会員数が減少しました。当然に県PTA協議会への会費納入総額は減少するわけですが、私たちの活動内容を低下させるわけには行きませんし、県PTA協議会としての神奈川県教育行政への関与は縮小するどころか、政令指定都市が外れる事によって、ますますその比重は高まっています。



【神奈川の子どもたちが健やかに伸びゆく環境を】

神奈川県PTA協議会会長 笹原 和織

開くと共に、地域の中核的な存在になるべく位置付けられる事をご存知でしょうか。PTA活動を経験する事が「地域活動への参加の二歩」である事は多いと思いますが、今後はそのような方向性の中で「学区や学校を越えて連携していく事の意義も考えねばならないでしょう。」「通学環境の安全性の向上」やネットやSNS利用に対する「いじめ対策」などは、その解り易い喫緊の課題の一例でしょう。

他方でこの時期に毎年のように繰り返される「PTA批判」。答える責任は、我々にこそあると考えています。日々の仕事に加えて、子ども達のためにこそと汗を流しているのは、各小中学校の会員の皆さんだけでなく、私たち県協議会の役員一人一人もまた同じだからです。

このような「県PTA」を取り巻く状況の中で、私たち県協議会が取り組んでいる事は四つあります。一つは「説明責任の充実」見える化」です。「上で決めて、下におろす」という言い方、聞いた事がありませんか。PTA経験が長くなるほど、本部経験が長くなるほど耳にする事がある言葉でしょう。私たちはこれを廃したいと考えています。そもそもPTA活動は、任意の人たちが自主的に活動すべきものであつて、その

前提は各人の納得にこそあると考えるからです。県協議会のレベルでも時に議論の白熱する事がありますが、「必要性を理性的に納得してもらう事こそが、任意性の基」であり、それでこそ各小中学校の会員の皆さんを視野に入れた活動ができると考えています。

二つ目は「事業化と内容の透明化」です。会員の皆さんは、実は「県PTA」というのは「県PTA協議会」と「PTA協議会」「安全互助会」の二つからなっている事をご存知でしょうか。「互助会」は会員の皆さんが学校PTA単位で加入しているもので、PTA活動中のケガや損害の賠償を保障しています。現在この「互助会」は法人化と互助事業の独自運営化に着手しており、会員の皆さんへの周知と未加盟校PTAへの勧誘が課題となっています。また「県PTA協議会」でも「かながわ子どもセイフティプラン24」というお子様のケガや病気、そして自転車事故等の賠償保障を含むものとして、保護者の皆様個人の選択でお子様の二四時間を保障する保険を、団体加入によるメリットを生かして提供しています。どちらも多額の費用運営を伴うものであり、前段の「説明責任」と共に会員の皆さんへも解りやすい「透明化」をはからねばなら

三つ目は「PTAの連携と開く化」です。大きな教育改革のうねりとネット環境の変化は、保護者と児童生徒だけを対象にした内向きのPTA活動を、地域や学区を越え、小中もが連携すべき課題を投げかけていると考えています。そういう外向きの活動を支えるために、県PTA協議会では昨年度から新たな活動を立ち上げようとする団体への「助成制度」を運営しています。

四つ目は「会員数の充実」です。相模原市の独立によつて、県下は「神奈川県」「横浜市」「川崎市」「相模原市」の四つのPTA協議会から構成され、会員数は順に約八万、二万四万、十萬、四万五千人で構成される事になりました。ご覧のように規模は二番目となったのですが、その必要性は神奈川県教育行政の中では依然高いものであり、会員数増加の可能性も高いのが実情なのです。それは政令指定都市と県の教育行政は別物であり、私たちの地域にはPTAの未組織校や未加盟校があるからです。PTA活動の必要性や広域的な連携の必要性を理解して頂き、その活動の輪を広げる事も私たちの直面する課題です。

回とは「本来任意でありながら、なぜPTAが必要なものであるのか」を二つのレベルに分け、それぞれを幾つかに整理した記事の特集を組んで頂きました。

今号の新聞発行が遅れたのは、そのために未加盟校の皆さんへも一考して頂くための内容を盛り込むとした事にあります。今

回は「本来任意でありながら、なぜPTAが必要なものであるのか」を二つのレベルに分け、それぞれを幾つかに整理した記事の特集を組んで頂きました。

編集の労を取って頂いた役員の方々に深く感謝すると同時に、会員の皆さんへは深くお詫び致します。これを機会に皆さんの活動をふり返つて頂くと同時に、県PTA協議会の活動への理解とご協力、そして変わらぬご指導をお願い致します。そしてこの紙面を手にした未加盟校や未組織校の皆さんが、PTA活動や広域連携にご理解を深めて頂く助になれば幸いです。

編集の労を取って頂いた役員の方々に深く感謝すると同時に、会員の皆さんへは深くお詫び致します。これを機会に皆さんの活動をふり返つて頂くと同時に、県PTA協議会の活動への理解とご協力、そして変わらぬご指導をお願い致します。そしてこの紙面を手にした未加盟校や未組織校の皆さんが、PTA活動や広域連携にご理解を深めて頂く助になれば幸いです。

作り手と読み手の心をつなぐPTA広報紙

今年度もたくさんの力作! お待ちしています!!

★平成28年度 PTA広報紙コンクール開催要項★

1.趣 旨

PTA活動の中で大きな役割を担っている広報活動は、充実した内容がもたらされた広報の発行によって、会員意識の向上と会員相互のコミュニケーションなどに大きな役割をはたしている。そこで、より一層親しまれる魅力あるPTA活動を推進するための方途として、広報活動充実と発展を期することを目的として、広報紙コンクールを開催する。

2.主 催

神奈川県PTA協議会

3.後 援

(予定) 神奈川県教育委員会 神奈川県公立小学校長会 神奈川県公立中学校長会 神奈川新聞社

4.応募規定

- (1)版紙は自由
- (2)応募広報紙は平成28年度発行の全号(特集号・臨時号・速報も含む)
- (3)各市町村郡PTAにおいて審査の上、全号を各5部送付のこと(単位PTAより直接、県PTA事務局へ送付されないようお願いいたします)
- (4)応募締め切り 平成29年4月14日(金)県P事務局 必着

5.審査及び審査委員

- (1)審査期日 予備審査 平成29年4月下旬予定
- (2)本審査会 平成29年5月9日(火)
- (3)審査委員 神奈川県教育委員会 神奈川県公立小学校長会 神奈川県公立中学校長会 神奈川新聞社

6.審査基準

- (1)レイアウト 見やすさ、興味関心を引く記載など
- (2)家庭と学校 家庭や地域に関わる、興味関心を引く記事、相互の連携を示す記事など
- (3)企画性 子育てや教育環境に係る参考になるアンケートを実施するなど、考察のある記事
- (4)記録性 PTA本部、各委員会の活動内容などの明確な紹介記事など
- (5)自主性 実際に自分たちで収集した記事であることがわかる記事など
- (6)問題提起 現代的課題(時宜にあった課題)の記事など

※上記の審査基準はあくまでも、一例として参考にし、審査を行います。

7.入 賞

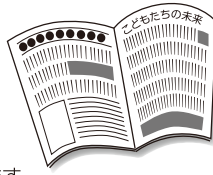
最優秀賞 1校 神奈川県PTA協議会 会長賞・優秀賞 1校 神奈川県教育委員会 教育長賞
優秀賞 1校 神奈川新聞社賞・優良賞 3校・奨励賞 17校

8.発 表

平成29年5月中旬に全応募校及び市郡P事務局へ結果をお知らせいたします。

9.表彰式

平成29年度 神奈川県PTA協議会 定期総会会場にて【平成29年6月16日(金)】
※応募広報紙は返却いたしません。
※応募規定に合わない場合は審査の対象になりませんので御注意ください。
※入選作品の中から更に審査をし、日本PTA全国広報紙コンクールに応募作品を送ります。



平成27年度 広報紙

コンクール入賞PTA

賞 受賞団体(PTA名)

★最優秀賞(県PTA会長賞)

葉山町立二色小学校PTA

★優秀賞(県教育長賞)

秦野市立洪沢中学校PTA

★優秀賞(神奈川県新聞社賞)

綾瀬市立早園小学校PTA

★優良賞

横須賀市立大塚台小学校PTA

綾瀬市立寺尾小学校PTA

厚木市立愛甲小学校PTA

★奨励賞

横須賀市立小原台小学校PTA

横須賀市立武山小学校PTA

横須賀市立津久井小学校PTA

相模原市立向陽小学校PTA

相模原市立富士見小学校PTA

相模原市立藤野小学校PTA

海老名市立杉久保小学校PTA

秦野市立西小学校PTA

伊勢原市立伊勢原小学校PTA

伊勢原市立石田小学校PTA

大磯町立大磯小学校PTA

松田町立松田小学校PTA

松田町立松田中学校PTA

小田原市立新玉小学校保護者と教師の会

小田原市立城山中学校PTA

厚木市立清水小学校PTA

厚木市立戸室小学校PTA

厚木市立睦合東中学校PTA

子どもたちは様々な場面で「いのち」を感じています！
小さなつぶやきの中に、子どもたちの「今」を見つけられるかもしれません。

❖子どもの学び…「いのちの授業」❖

～「神奈川県教育委員会」と「神奈川県PTA協議会」との連携～

子どもたちの社会性や規範意識の低下、不登校やいじめ・暴力行為などの教育課題、自殺や若者の自立をめぐる問題が生じている中、他者への思いやりや自分を大切にすることを育み、かながわを担う人づくりを進めるため、各学校では、各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間、食育やキャリア教育など、あらゆる教育活動を通して、「いのちの授業」を展開しています。

【神奈川県教育委員会 子ども教育支援課】

心で学び…心で感じて…

「いのちの授業」を受けて書いた作文に、子どもたちの真っすぐな心を感じます！
そして素晴らしい授業をしてくださった先生にも感謝します。



黒岩知事あいさつ



神奈川県PTA協議会 会長賞（先生と生徒さん）



受賞者のみなさん

県協議会役員として参加する委員会や表彰式は数多くありますが、この表彰式は中でも意義深いものの一つです。生徒の皆さんの応募作品の選考から関わり、「県PTA協議会会長賞」を選定しています。多くの作品を読み、授業の内容を想像しながら、先生の授業構想や生徒の思いを受け止めながらの選考ですが、表彰式で実際にお会いし、先生の授業内容をお聴きし、生徒自身の朗読を耳にすると、どの作品にも熱い思いの込められている事に感動し、目頭の熱くなることの多い表彰式です。

神奈川県PTA協議会 会長 笹原 和織

※神奈川県教育委員会のホームページにて作文のご紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417796/p820411.html>

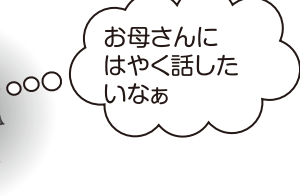


～なくそう! 気づこう! 『いじめ』～

見直そう家庭の役割
…私たちにできること!

子ども達も「社会」で頑張っている!

からだも心もやすめる場所…「お・う・ち」



「まずは、子どもの話をゆっくり聞いてあげよう。」「頭ごなしに問いつめずに、少し待ってみよう。」心では思っている、日々の慌ただしい暮らしの中で、つつい…そんな風に思われたことはありませんか。家庭は「からだも心もやすめる場所」であり、「エネルギーを充電する場所」でありたい。大人も子どもも同じです。

『一人でかかえないで、誰かに話そう! …それは【子ども】も【大人】も同じ』

いじめ防止対策推進法の施行に伴い、平成25年度から次のとおり定義されています。

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

〈文部科学省〉

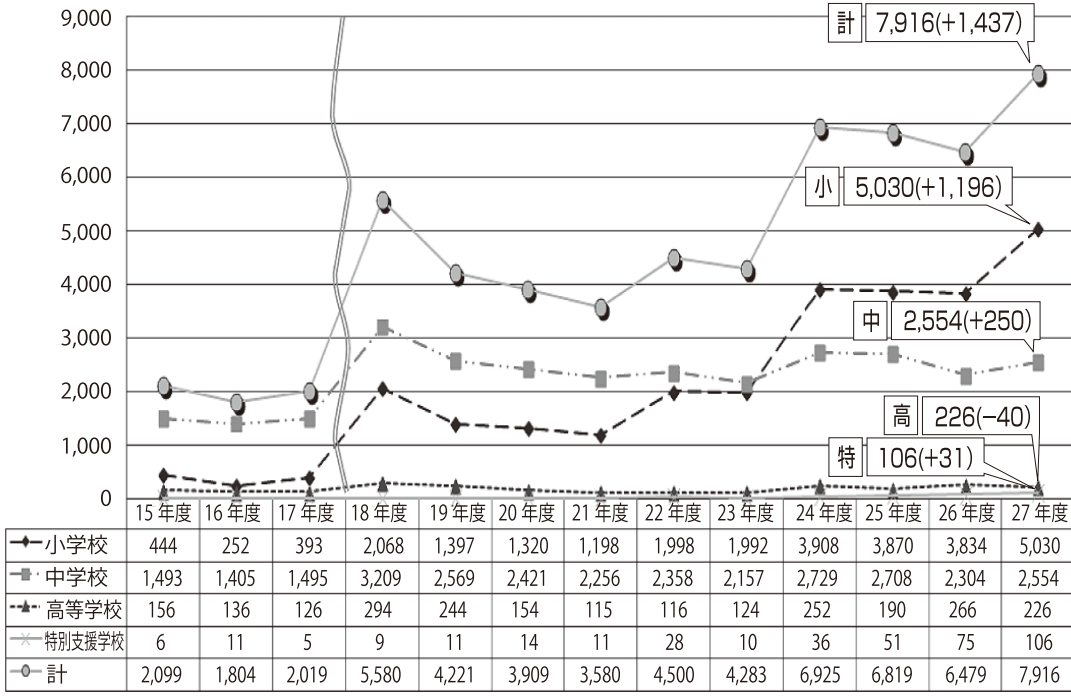
つまり、言葉や行動を受けた子どもがいじめられたと感じれば「いじめ」とみなすのが今の定義であり、各学校では、いじめられたとする児童・生徒の立場に立ち、いじめの初期段階のものも含め、積極的に認知しています。

保護者の皆さんには、「いじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子にも起こりうる」という基本的な考えに立ち、ふざけやじゃれあいが重なり合えば、いじめにつながるということも含め、今一度「いじめとは何か」を、子どもたちや教職員、さらに地域の方たちと共に考え、取組を進めていくことが大切です。

〈神奈川県教育委員会〉

いじめの認知件数の推移（神奈川県公立小・中・高・特別支援学校）【件】

*18年度にいじめの定義が変更された



「PTA」を考える

「各小中学校のPTAと県PTA協議会の必要性は？」

「強制的である」とか「役員の押しつけである」とかの個々の組織の運営上の問題は、ここでは個別の問題として会員の皆さんの良心に任せたいと思います。それはPTA活動が任意を前提とするものであり、その団体としてのあり方も任意が前提であるという特性によります。ここではまず保護者の私たちと学校側の先生・教育関係者とが一つの団体であるPTAを作っているということの意義を考えたいと思います。

◆保護者同士のつながり

一つには教育現場で起きる様々な問題を個別の問題としてではなく、ある程度普遍的な「環境問題」として解決を目指したり、その発生を防ぐような環境を整えたり、さらなる環境向上を目指すという意味があるでしょう。いじめや非行の問題が、保護者同士のつながりや地域の大人同士の見る目で防げる事が多いという、過去の事例の反省を踏まえる事が必要でしょう。

◆保護者と教職員がともに学ぶ

二つ目には、私たち自身の大人としての資質の向上も考えられるでしょう。お互いが社会人としてそれ相応の知識と経験を持ちながら、先生と保護者あるいは保護者同士が一つの課題を抱え解決を目指すその過程の中で、お互いの視野が広げられたり、地域を知ったりという学び合いの可能性があるのではないで

ようか。多くの会員が保護者の視点を超えて、地域による様々な支えを意識するようになったり、今後増加するであろう若い教職員がどのような実践を身につけていくかが、そこでは問われているでしょう。またPTAが保護者と教職員の会であるということは、教育をめぐる環境作りの主体と責任はどちらか片方にあるのではなく、両者にあるということでもあります。

◆団体活動であることの意味・尊敬と感謝

三つ目に、この活動が個々のボランティア活動ではなく、組織としての活動が必要されるのは、この両者の環境づくりと資質の向上が、子どもたちの巣立ちとともに年々新に繰り返されるものであり、また維持されねばならないものだからではないでしょうか。土台のない所から立ち上げる苦労やストレスもあり、逆に何かを一緒にする所から生まれる一体感や関係性もあります。

このように考えてみると、これも批判される「マンネリ行事」も決して意味がないわけではなく、反対に単なる子どもたちへのイベント提供団体でもあり得ず、さらには学校への圧力団体でもないという事が理解できるでしょう。私たちは学校という生き物を維持し、長期的には地域を創造し維持する団体であると同時に、自ら自身をお互いに高めあう必要性と可能性

をも持ち合わせていることになりす。このような必要性に気づくとき、任意を前提とする以上、お互いがお互いに対して、尊敬と感謝の気持ちを持ちながら活動する必要性も理解できるのではないのでしょうか。

.....

◆では神奈川県PTA協議会の意義は？」

「学区を越えてつながる意義」環境の変化

それぞれの各小中学校のPTAが、小中や学区を越えてさらに繋がりが合う意義は、どこにあるのでしょうか。それぞれのPTAが自主的に効率よく、理想的に動くことができていれば、少なくとも各地域の問題も解決され、広い連帯の必要性はないかも知れません。しかし子どもたちを取り巻く「環境」が、すでに各小中学校という学校単位を超えて存在しており、様々な問題は、校区を越えて影響し合うようになり始めているということに気づくとき、広い連帯の必要性が浮かび上がるでしょう。

◆子どもたちの安全を守る「通学路にネット環境

「通学路」の安全性確保の問題や「ネット利用の問題」などは、その典型例です。通学路は小学校や中学校単位で完結しているものではなく、ネットを利用したSNS、特にLineなどを利用した子ども達の間では、学区や地域を越えてつながり始めています。非行に繋がる環境や地域の安心をめぐる環

境は、小学校や中学校の単位を越えて近隣の地域の方々とも連携して取り組まねばならない課題でしょう。

私たちが連携する事で市町村の行政や警察組織に声を上げ、協力できる事も多いのであるとするならば、県行政に一つの団体として声を上げ、協力する必要も理解出来るでしょう。実はすでに県PTA協議会の役員としての役目には、そのような活動も含まれているのです。

◆県教育行政との連携

二つ目として、各小中学校PTAが保護者と教職員の相互の資質向上に寄与するものであるならば、県協議会にもまたその必要性があります。県教育行政としてどのような視野を持つべきであるのか、子どもの教育環境の整備と向上と持続的な発展のため、何が必要であり、行政と私たちはそれぞれにどう行動し、何を变えたいのか、保持し続けるべきであるのか。それが県PTA協議会というレベルでの組織が必要とされる理由であり、またそれは、相互にとつての学習の場でもあります。それは県役員としてはある種の特典でもあるのかも知れませんが、同時に皆さんへも積極的にお伝えしなければならぬことでもあります。各地域の代表である「理事」の皆さんが、そういう重責と負担を負い、また得難い経験もしているということをご理解ください。

◆共に集う意味：経験の共有

県PTA行事として各地域から皆さんにおいて頂く表彰式や大会などは、そのような知識や経験を二人一人の会員の皆さんと共有する機会でもあります。私たちは県の協議会の行事だけでなく、各市町村やブロック単位、さらには各小中学校PTAの行事等も、積極的に地域やそれぞれの会員一人一人の皆さんに開いて頂けるように働きかけています。経験や知識を共有したり、地域や学校の相互の刺激の中から、PTA活動自体が豊で実り多いものになるようにしたいと考えるからです。

このような活動で保護者の皆さん、家庭を会員として成立っているのが、県PTA協議会としての活動です。皆さんの会費で成り立っているこのような活動が、はたして意味のある活動であるかどうかは、常に厳しい目でご覧頂きたいと思っています。同時に会費を納入して頂いている会員の皆さんにとつて、県PTA協議会として意義のある活動をしているか常に反省しつづ運営に当たらねばならないと考えています。

「神奈川県PTAの保険事業」

県PTA協議会は事業として二つの「保険業務」を行っております。一つは「安全互助会」の行う「互助会保険」であり、もう一つは「かながわ子どもセーフティプラン24」です。

◆各PTA単位で加入「安全互助会」

「安全互助会」は各小中学校PTA単位で加入する団体保険であり、会員の皆さんがPTA会員である以上、その活動中に生じた様々な怪我や損害を対象として補償しています。比較して、非常に経済的にかつ広い対象を補償していることをご確認下さい。なおこの「安全互助会」はその透明性の確保と運営の健全化のためにすでに「法人格」を取得しており、独自で保険業務を行うべく準備中です。

◆各家庭が個人で加入「かながわ子どもセーフティプラン24」

「かながわ子どもセーフティプラン24」は、PTA会員の皆さんが個人加入すること、対象とするお子様の怪我や病気、さらには他者に与えた損害の賠償を目的とする任意の「個人保険」です。これは一般企業の提供する保険に比べ、各小中学校のPTAが県PTA協議会に所属する事で、一人一人の保護者の皆さんが団体加入での割引保険契約となり、低額で補償内容の高いものになっています。

特にこの「かながわ子どもセーフティプラン24」は、各小中学校がPTA組織を作り、さらに各市町村を超えて県レベルの協議会を

『かながわ子どもセーフティプラン24』（こども総合保険・自転車総合保険）

当制度は、児童・生徒のケガや賠償事故等、日常生活中に想定される様々なリスクに対応した制度です。

『かながわ子どもセーフティプラン24』の7つの特長 ●このご案内は、制度の概要を説明したものです。詳細は右記のお問合せ先までお問い合わせください。

- 特長その1 お子さまがケガをした場合の治療費用を補償（健康保険の3割自己負担分、差額ベッド代、入院退院時の交通費など）
- 特長その2 補償期間（保険期間）中、1日24時間（学校の休みの日も）補償
- 特長その3 お子さまが日射・熱射によって熱中症を発病した場合を補償
- 特長その4 地震・噴火・津波によるケガも補償（一部プランを除く）
- 特長その5 自転車事故に備えた自転車事故重点補償プラン（オプション）をご用意
- 特長その6 適用される割引率 約48%割引（平成28年度実績）
- 特長その7 掛金は便利な口座振替で、中学卒業まで自動更新が可能（注：私立中学校および神奈川県PTA協議会非会員校に進学された場合は更新できませんのでご注意ください）



※当制度にご加入を希望される方は、右記の[当制度のお問合せ先]までお問い合わせください。

2016年8月現在の内容です。

【当制度のお問合せ先】

取扱代理店／株式会社 ジーアンドケイ・アソシエイツ
神奈川県PTA協議会

『かながわ子どもセーフティプラン24』係

☎ 0120-115-852

（9:00～17:00：土・日・祝日・年末年始を除く）

引受保険会社：AIU損害保険株式会社

つなぐれ神奈川のPTA! 子どもたちのために!!

【PTA組織図】

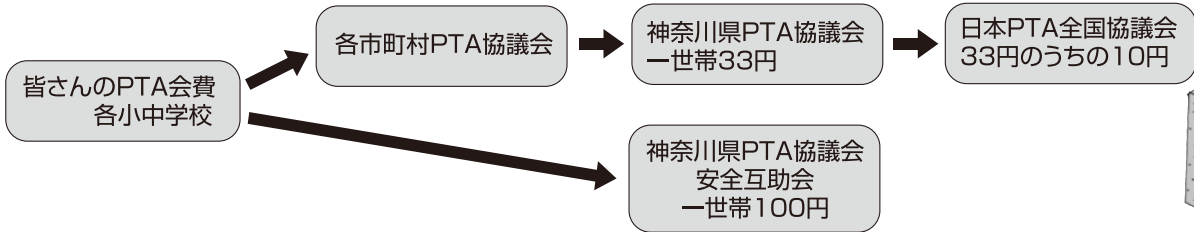


❖神奈川県内(政令市を除く)502校のうち432校、約86%が加盟をしています!

平成28年度 神奈川県内(政令市の横浜市・川崎市・相模原市を除く)の公立小中学校は約502校あります。「PTA」「保護者会」などの組織はすべての学校に必ずあるものではなく、組織を持たない学校、または組織はあるが、市町村郡PTAに所属せず、その学校が単独で活動を推進しているなど様々です。平成28年度は、502校のうち432校が各市町村郡PTAに所属し、県PTA協議会の会員校として活動を行っています。

【PTA会費のながれ】

お一人当たりのPTA会費総額は、各小中学校PTAや市町村PTA協議会によって異なります。「県PTA協議会安全互助会」に加盟していないPTAもあります。



神奈川県PTA協議会
会長 笹原和織

共に作り共に
歩み続けるPTA

作り、維持することによって生じている「スケールメリット」が実現しているのだということを指摘しておきます。

の全てではないのかも知れませんが、また私たちが向き合わねばならない様々な課題があるだろうことも事実です。しかしそれらは皆さんの素朴な疑問や指摘によってこそ顕在化するものであり、私達役員自身の日々の反省と、そして皆さんの協力なしには、解決し活動を持続し続けることが出来ない事も多いのです。一人一人の会員の皆さん

の善意と互助を基調に、共に作り歩み続けねばならないのが、県PTA協議会でありPTA活動なのです。

平成28年度 神奈川県PTA協議会 委員会活動及び全体事業

「あなたの意味づけがPTAの活動を支え、変えていく」～地域に開く学校の応援団～

【教育力向上委員会】

- 県教育行政に対する要望活動
- 教育環境に関する保護者の意識調査アンケートの実施

【教育環境委員会】

- 県教育委員会との連絡会 ●県公立小中学校長会との教育懇談会
- 神奈川県教職員組合との教育を語るつどい

【広報見える化委員会】

- 広報「PTAかながわ」の発行 ●ホームページの管理

【全体事業】

- 神奈川県PTA大会の開催 ●神奈川県PTA講演会の開催
- 単位PTA、市町村郡PTAとの連携
- 日本PTA大会、関東ブロックPTA大会への参加
- PTA年次表彰 ●広報紙コンクールの開催及び表彰
- 関係諸団体会議への出向
- PTA事業助成「つながる大人の向上心～学びあい、教え合う大人の背中」

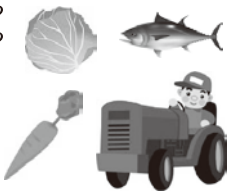
～子どもたちに伝えたい! 私たちの【食】について～

子どもと話そう! 地産地消

『住んでいる地域の物を食べる…って、どういうことなの?』

地産地消には、単に地域でとれたものを地域で消費するだけでなく、生産者、消費者双方が互いに農や食に対する理解を深め、一緒に農を支えていく取組です。

◇新鮮でとれたての食材が手に入る◇「生産者の顔が見える」=安心につながる◇環境にやさしい◇旬を知ることができる◇地域とのつながりが強まる



『この給食メニュー覚えてる?』

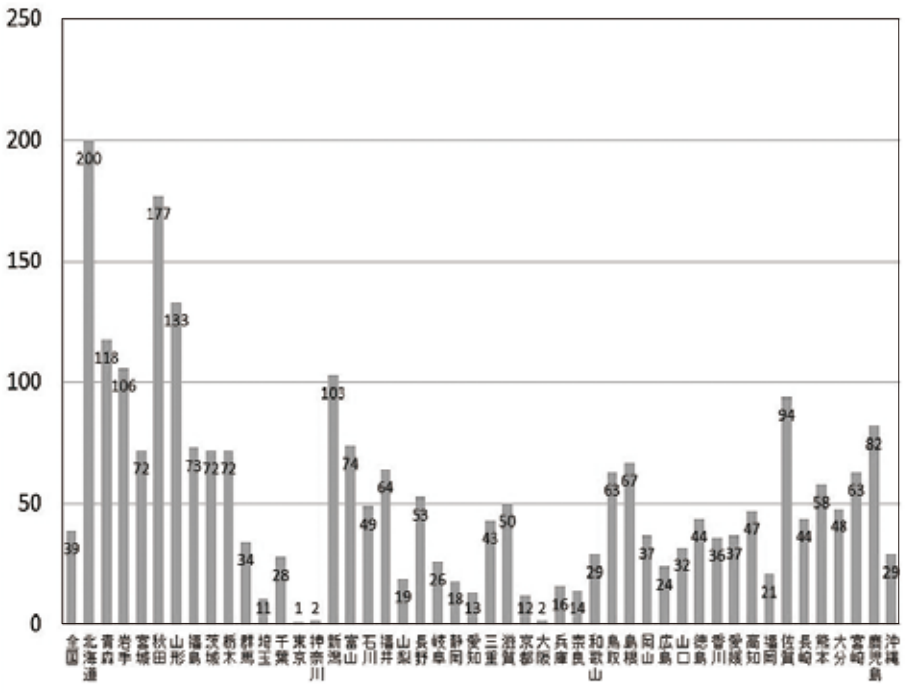
平成27年度 各市町村の名産品や神奈川県でとれた食材を取り入れた各地域での学校給食での好評メニューのご紹介です!

市町村名	メニュー名	市町村名	メニュー名
横須賀市	いそあえ 豚肉と大根のべっこう煮	平塚市	ベジ太のきのこスープ ベジ太のジャージャー麺
三浦市	(ソフト麺)かじきまぐろの中華風あんかけ	南足柄市	ブルコギ丼 大根とカブの味噌汁
葉山町	根菜のごま汁	中井町	キムチチャーハン
鎌倉市	鎌倉産しらすのかきあげ丼	大井町	芋煮汁
藤沢市	ふじさわロールパン ポークビーンズ	松田町	すき焼き煮 のっぺい汁 麦ごはん
茅ヶ崎市	すいとん 湘南しらすごはん	山北町	芋煮汁
寒川町	味噌おでん	開成町	弥一芋からあげ 弥一芋と鶏肉の吹き寄せ煮
大和市	ヤマトン汁	箱根町	つみれ汁 メカジキのかりんとう風 わかめごはん 肉団子と野菜の薄くず煮
海老名市	えびないつぱい かす汁	真鶴町	海のカレー
座間市	カマスのごま揚げ さつまいもごはん	湯河原町	メカジキのごまがらめ 菜飯 小松菜のり和え 手作りみかんゼリー
綾瀬市	あやっこりーサラダ	小田原市	かますの蒲焼梅風味丼
秦野市	里芋と焼き豆腐のうま煮	厚木市	麦入りごはん/冬野菜カレー
伊勢原市	芋煮	愛川町	ラスク ポークビーンズ ひじきのマヨネーズあえ
大磯町	かますのたつた揚げ マコモダケ入りかきあげ	清川村	鮭とポテのゆず醤油からめ
二宮町	大学芋		

『PTA講演会』報告

- 日時:平成 29 年 1 月 17 日 (火) ●会場:湘南台文化センター
 - 講師:結城 登美雄 氏 ●演題:「次世代が生きる地域社会の課題～食と農から考える～」
- 結城先生は、東北をフィールドワークしながら住民を主体にした地域づくりの手法「地元学」を提唱されています。誰もが持っている、生まれ育った場所。また親になって子育てをしている場所。PTA 活動を通し、「地域との連携」という言葉をよく耳にします。私たちは、自分の住む地域をどれだけ知っているのでしょうか。
- 「地元を愛する」ということや「地元のために」ということがどのようなことなのか…私たち神奈川県「食料自給率」がたったの2パーセントだというデータに驚き、未来を生きる子どもたちの「食」について、あらためて考えさせられました。

当道府県別食料自給率(カロリーベース) (平成24年)



大会参加 報告

第 48 回
日本PTA 関東ブロック研究大会

茨城大会

平成 28 年 10 月 21 日 (金) ～ 22 日 (土)
歴史と未来が息づく常陸国から 伝えたい願い 伝わる想い
～愛する子どもたちへ贈るメッセージ～

関東ブロック協議会は〔新潟県〕〔茨城県〕〔栃木県〕〔群馬県〕〔埼玉県〕〔さいたま市〕〔千葉県〕〔千葉市〕〔川崎市〕〔横浜市〕〔山梨県〕〔長野県〕〔静岡県〕〔新潟市〕〔相模原市〕〔神奈川県〕この16 協議会からなっており、今年度は〔茨城県〕で開催され、神奈川県からは、48 名の参加となりました。

1 日目はひたちなか市を中心に8つの会場で分科会が開催され、第3分科会〔人権〕では、神奈川県PTAより、茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校の実践発表があり、多くの仲間が応援に駆け付けました。2 日のアトラクションでは、常陸大宮市立大宮北小学校による江戸時代から続く〔子ども歌舞伎〕が披露されました。子どもたちの一生懸命な姿に感動するとともに、子どもたちの輝く瞳が、真っすぐな心が曇ることのないように、私たち大人が手をたづさえ、より良い環境を作ることPTAの大きな役割だと感じました。

全体会では【〔深い学び〕と思考体力】をテーマに、東京大学先端科学技術センター教授の西成活裕さんによる記念講演が開催されました。

〔無駄学〕〔渋滞学〕など多くの研究をされており、興味深いたくさん言葉がありました。

大会参加 報告

第 64 回
日本PTA全国研究大会

徳島うずしお大会

平成 28 年 8 月 20 日 (土) ～ 21 日 (日)
～まけまけいっばいの愛を注ぎ込もう!～

大会スローガンの〔まけまけいっばい〕とは徳島県の方言で〔あふれそうなくらい〕という意味だそうです。さらには、〔渦巻く〕は〔うずしお〕のこと。〔巢立つ〕は〔すだち〕にかけたとのこと。徳島県PTAの皆さんの思いが伝わります。

子どもたちのために、あふれそうなくらいの愛を注ぎ込もうと全国から約 4500 名のPTA会員が集い、熱く厚く!暑く!大会が開催されました。

1 日目は、〔組織運営・広報活動〕〔家庭教育・健康安全〕〔学校教育〕〔人権教育〕〔環境教育・地域連携〕〔特別第1〕〔特別第2〕と7つの分科会が開催され、PTA 活動の実践発表や様々なテーマでの講演、協議が繰り広げられました。2 日目は、アトラクションでは本場徳島市の迫力ある阿波踊りも披露され、〔輝く未来をひらくために大切なこと〕～子どもたち、そして私たちが自立するために～をテーマに徳島県出身の漫画家、竹宮恵子さんによる基調講演でした。



神奈川県からの参加者

オール神奈川のPTAが集い、
心にお土産いっぱい!

【第 58 回 神奈川県PTA大会 報告】

■日時:平成28年11月16日(水) 場所:小田原市民会館 大ホール

1. 映画上映 「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」 脚本 栗山 宗大 氏 2. 年次表彰 (県知事感謝状 教育長感謝状 団体表彰)

3. 基調講演 講 師:栗山 宗大 氏 脚本家 テーマ:「自分の物語を生きる～出会いのキセキ～」

4. 実践発表 ・茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校PTA「あたたかな感謝の気持ちを届けます～PTA晴れの日ボックス～」
・足柄上郡大井町立大井小学校PTA 「平成26年度～27年度 PTA活動におけるイノベーション」

○映画上映「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」と講演について

【国、言葉、文化など、世界にある様々な“ちがひ(違い)”。考え方や容姿、家庭環境など、身近な暮らしや人間関係の中にある“ちがひ(違い)”。時としてそれは、私たちから“思いやりの心”を奪ってしまうのです。そんな“ちがひ(違い)”に葛藤しながらも、乗り越えていく感動を伝えてくれるストーリー。「出会えて嬉しい」「みんな違ってそれがいい」などの、力強いメッセージ。ものがたり法人FireWorksより】

○実践発表

【茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校PTA】

「PTAはれの日ボックス」☆学校で先生に褒められた。☆旗振りの人と毎日お話ししているよ。☆保健室でばんそうこう張ってもらった。☆給食で嫌いなものが食べられた。など何気ない子どもの感謝の気持ちや、保護者の皆さまのなかなか伝える事のできない感謝の気持ちをお手紙にして、PTA本部が責任をもって宛先の方にお届けをするシステム。心と心の交流が生まれます。そのパイプ役をPTAが担っているという活動発表でした。

【足柄上郡大井町立大井小学校PTA】

地区校外委員会が編成する「登校班」による集団登校、PTA全会員による「おはようあいさつ運動」学年学級委員会による「PTA学年行事」、図書ボランティアによる図書環境整備作業・読み聞かせ活動など、多くの特色ある活動を行っています。年度末に出された「課題点」に対し、次年度には丁寧な「改善策」をたて、その効果から、また次年度への取組みへとつないでいくという活動発表でした。

❖ 大会参加者の声の一部をお届けします! ❖ アンケートにご協力いただきました皆さま、たくさんのご意見、ご感想をありがとうございました。

◇映画の内容について

・感動した。心温まる内容だった。とても良かった。(多数) ・子どもに見せたい映画だった。子どもと一緒に観たい映画だった。(多数) ・「自分らしさ」「自分らしくあること」の大切さを改めて考えることができた。 ・「普通」というのが、一番難しいのかもと感じた。みんな違ってあたり前だと思ひなおした。(多数) ・出会いの大切さを感じた。(多数) ・子育てにいかしていきたい内容だった。 ・子ども会や町内会でぜひ上映会をしたいと思う。 ・涙が止まらなかった。(多数)

◇PTA大会での映画上映について

・講演会は何回も参加しているが、映画は初めてだったので新鮮だった。 ・講演の前段での上映、という形式も良いなと感じた。 ・PTAの家庭教育学級(研修会)で上映してみたらどうかと思った。単Pで上映したい。(多数) ・映画の主旨はわかるが、PTAとの関係性がわからない。 ・PTA大会での映画上映は必要ないと思う。 ・映画という媒体は色々ならえ方ができて素晴らしいと思った。 ・PTAの大会でこのような素敵な時間を過ごすことができてうれしかった。(多数)

◇発表について

・「晴れの日ボックス」はぜひ取り入れてみたいと思った。(多数) ・他のPTAの事例を聞くことができて良かった。大会に参加できて良かった。(多数) ・大会式が長かったせいか、発表の時に帰宅する人が多く残念だった。(多数) ・自分の単Pをもっと有意義なものにしていきたいと考えさせられた。 ・PTAの存続不要、委員の選出のむずかしさが語られる最近、楽しみながらイキイキと子どもたちのために活動をされている様子を知り、頼もしく元気づけられ

◇開催時間について

・拘束時間が長すぎる。(多数) ・午前中から開催して、早くに終わってほしい。(多数) ・子どもの帰宅時間には家にいたいので、早い時間での開催を希望します。 ・ちょうどお昼の時間に開会というのはどうかと思う。 ・数年前に午前から開催してお弁当をいただいて、午後早めに終了する大会に参加したがとても良かった。

神奈川県PTA大会の「か・た・ち」

※「神奈川県PTA大会」は平成22年度まで、横浜市の青少年センター、県立音楽堂などで、午前中からの終日開催という形で実施してまいりました。県内どの地域の会員の皆さまにも参加していただける機会を増やしたいという声から、平成23年度は厚木市、24年度・26年度は相模原市、そして27年度は茅ヶ崎市で開催いたしました。参加者の皆さまからの声をもとに、終日開催から半日開催へ、また、平日開催、土曜開催など様々な改善をしてまいりました。

今後も各校PTAの活動に有意義なものになるよう努めてまいりたいと思います。

平成28年度 PTA事業助成金【つながる大人の向上心～学びあい、教え合う大人の背中】

小田原市立早川小学校PTA

●事業名 早川の火語り ●日時 平成28年10月9日(日)

市内各単位PTA及び各小中学校へ案内を配布し周知。各地域団体へは直接事業内容の説明をして回った。各班ごとに分かれ、全体を囲むように丸太のロウソクを配置し、講師と聞く側の間にも配置した。丸太が燃え尽きるまでの約1時間、4人の講師から15分ずつ話を聞いた。防火対策として、消防団員による火の見守りと、消火用に消防車両を用意した。事業終了後、〔デザインこねこ株式会社〕から発行されている【おとなりさん】に掲載され、市内全域に配付をしていただくことができた。

神奈川県PTA協議会足柄下ブロック

●事業名 足柄下ブロック研修会 ●日時 平成28年12月3日(土)

■講師：大島 武 氏

■演題：「親と子のコミュニケーション～もっとわかりあうために～」

平成28年12月3日(土)大島武氏をお招きし、親子のコミュニケーションをテーマに講演会を行いました。小さな成功体験の積み重ねが自信ややる気につながり、失敗体験から「自分にはできないこととできることがある」ことを知ることが子供を成長させる、というお話や、円滑なコミュニケーションのためには、アイコンタクトやスマイルを意識することが大切というお話がありました。親子の間だけでなく、様々な場面における人との関係性に対しても通じる、興味深い講演会でした。

葉山町PTA連絡協議会

●事業名 第1回 葉山町PTAスポーツ大会 ●日時 平成28年12月3日(土)

土曜日のスポーツ大会であることから、従来の行事では参加が難しかった父親の参加も多数得られ、各校間の保護者や教員、関係団体との親睦を図ることができました。加えて、神奈川県PTA協議会との連携、助成事業である点もアピールできました。当日は、J:COM にも取材にお越しいただき、地域の方にも広く本事業を紹介していただけたと考えます。参加人数も予定通り400名前後となりました。

当日は朝からたくさんの参加者が集まり、試合も白熱したものとなりました。親と先生、給食調理員が同じチームで戦う姿に子どもたちも興奮し、大きな声で応援をしていました。優勝が懸かる試合では、他校の子どもたちや関係者も一緒になって応援し、一体感を得ることができました。葉山町PTA連絡協議会としては初の試みでしたが、参加者からは評価をいただく事が出来ました。

茅ヶ崎市立西浜中学校PTA

●事業名 西浜マラソン大会 ●日時 平成28年12月20日(火)

一般参加者も一緒に競技を行う大会とし2年目。1年間地域に向けて広報を行い、沿道の地域の方々には生徒と一般参加者が一緒に走る姿を喜んでいただけた。PTAが準備した豚汁の昼食を通して生徒、保護者、地域との交流を深めることができた。次年度に向け、更に地域への声掛けなど広報活動も行い、更なる効果をあげられるよう努力を続けたい。

神奈川県 PTA 協議会ホームページのご案内

県 PTA の活動や、県内中学校 PTA の様々な活動もご紹介しています。
<http://www.pta-kanagawa.com/>

平成28年度「三行詩」
神奈川県 優秀作品

ほっこりするね！「家族」っていいね！



～家族で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～

小学生の部

日本PTA全国協議会 佳作

箱根町立箱根の森小学校 1年 遠山 紗世さん
「ともだちが こまっていたら
手をつなぐ ひとりよりふたり
ふたりより みんな」

神奈川県PTA協議会 入賞

箱根町立箱根の森小学校 4年 鈴木 悠介さん
「感謝しよう
みんながいるから
僕がいる」

神奈川県PTA協議会 入賞

茅ヶ崎市立香川小学校 1年 杉本 星莉菜さん
「よるごはん たのしみだいすきかぞくじかん
おなかいっぱい
えがおいっぱい」

神奈川県PTA協議会 入賞

山北町立川村小学校 5年 数馬 史菜さん
「言っても言われても
ほかほかになれるまほうの言葉
「ありがとう」があふれる家族っていいな」

神奈川県PTA協議会 入賞

綾瀬市立北の台小学校 2年 菅沼 勇希さん
「おいしいごはんを作るのは、ママの仕事！
「いただきます」のごうれいは、ほくの仕事！
残さず食べるのは、みんなの仕事！」

中学生の部

神奈川県PTA協議会 入賞

厚木市立厚木中学校 1年 永田 愛樹さん
「私のうふふ（笑顔）は家族のうふふ
家族のうふふは私のうふふ
うふふがいっぱい幸せいっぱい」

一般の部

神奈川県PTA協議会 入賞

綾瀬市立北の台小学校 佐々木 明美さん
「『いつも あなたの味方だよ』
「あたり前でしょ、私のお母さんなんだから。」と
娘が言う
そうだった、あたり前だった。」

神奈川県PTA協議会 入賞

山北町立川村小学校 尾崎 麻名美さん
「子どもを叱るその時にきょうだいみんなの名前よび
ようやく出てきたその頃は
叱る声より笑う声」

神奈川県PTA協議会 入賞

南足柄市立岩原小学校 三輪 雪恵さん
「じーじがら、畑のお手伝い頼まれる息子。
返事の後に二人でアイコンタクト
おだちんの相談かな？」

神奈川県PTA協議会 入賞

箱根町立箱根の森小学校 中場 典世さん
「スマホより 目を見て話せば 心がつながる」

神奈川県PTA協議会 入賞

茅ヶ崎市立香川小学校 深澤 倫央さん
「欲しい 欲しいと言っていた子供部屋
せっかく出来たのになぜ行かない？
そうだよな みんなで居るのが楽しいもん！」



神奈川県PTA協議会 安全互助会のご案内

神奈川県PTA協議会に所属する小・中学校PTAが団体として加入する保険です。
年会費＝1世帯100円

(27年度 神奈川県PTA協議会加入PTA 535校のうち互助会加入PTA 495校)

PTA 活動中に生じた傷害・事故に保険金・お見舞金を給付いたします

□ 傷害保険

- 保 険 金（保険会社より）…入院日額 3,060円
通院日額 1,140円
- お見舞金（安全互助会より）…入 院 10,000円
※一事故につき 通 院 5,000円

□ 賠償保険 過去のお支払い事故例

- ・PTA主催のソフトボール練習中、打ったボールが学校の窓ガラスを割ってしまった。
- ・PTA主催のお祭りで荷物を運ぶ際、止まっていた車に傷をつけてしまった。
- ・PTA行事のため、学校から借りていたテントが風で飛ばされて壊れてしまった。

◆ 問い合わせ先

安全互助会 事務局 TEL.045-228-7521
FAX.045-228-7541



第 65 回日本 PTA
全国研究大会
第 49 回日本 PTA
東北ブロック研究大会

仙台大会

■ 平成29年8月25日(金)・26日(土)



第 49 回日本 PTA
関東ブロック
研究大会

群馬大会

■ 平成29年10月21日(土)・22日(日)